

慈恵大学の  
「今」を伝える  
法人情報誌

# The JIKEI



2022 / Winter

## Masataka Okabe

私にとっての医学はヒト生物学でした。生物学を志す者には、多様性に魅力を感じる虫屋タイプと、個体の生命メカニズムに想いを馳せるラジオ工作タイプがいます。慈恵で学ぶうちに私は虫屋からラジオ少年に変わりました。多様性から個性へ。カリキュラム委員長として心掛けているのは、多様な個性が伸び伸びと育っていく環境を提供すること。メタモルフォーゼしていく学生を見守りながら、多様な個性が唯一無二の医師へと成長するために学舎のあるべき姿を探求しています。

東京慈恵会医科大学  
解剖学講座担当教授

## 岡部 正隆





# 伝統と改革…… 発展を目指して



学校法人慈恵大学  
理事長 栗原 敏

学校法人慈恵大学の顧問、前理事長、東京慈恵会医科大学・第9代学長、名誉教授の岡村哲夫先生は、令和3年8月3日、本学附属病院で、91歳のご生涯を閉じられました。大学を代表して心から哀悼の意を表します。先生のご逝去を悼み、また、先生とご家族のご意思を尊重して、令和3年11月27日、“岡村哲夫先生を偲ぶ会”が執り行われました。

岡村先生は、本学を昭和30年にご卒業になり、昭和31年本学第一内科学教室に副手として入られました。ドイツ、西ベルリンのノイケルン病院に留学され、本学講師を経て、昭和48年に聖マリアンナ医科大学の第二内科学教室の助教授として転出された後、教授に昇格されました。その後、昭和61年4月、本学の第4内科学教室教授として先生をお迎えしたのであります。

ご着任後、本学附属病院長をお務めになられた後、平成4年12月に本学の第9代学長に選任され、大学の改革に取り組みました。先生のお考えは、極めて論理的で、先生の独特のお考えとご発言は、“岡村美学”、“岡村哲学”と言われていました。大学と病院の機能を明確に分けて、臨床教員は大学の講座から診療科に出向して診療に従事するという考えを示され、診療に従事する時間と、講座で研究・教育などに従事する時間を明確に分け、片手間に患者を診ることを戒められました。

また、いわゆるナンバー講座を廃止して、臨床講座は診療科に対応した講座に再編されました。同じような研究を、複数の講座で行うのではなく、専門性を基軸に講座の再編をされたのであります。これは教育にも大きな影響を与えました。医学教育の改善にも着手され、平成8年度にカリキュラム改革を行い、本学のカリキュラムは全国に先駆けて斬新なものになりました。この改革には福島統講師(現、特命教授)が、献身的に協力したのであります。私は教学委員長として、教育の責任者になり

何とか先生を支えなくてはと考えていました。教育予算の話になった時に、先生は“教育にはいくら金をかけてもいい”と仰いました。大学運営が苦しくなると、先ず教育予算の削減が取り上げられますが、先生は、明確な理由があれば教育を尊重して予算を配分しようと考えておられたのです。理事長としての見識だと思いました。

また、本学の建築、特に、西新橋キャンパスの建築計画に明確なお考えを持っておられ、患者と医療者、学生が交錯しないように、患者にとって分かり易い病院を目指しておられました。しかし、限られた所有地にどのような建物を建てるのか苦慮しました。ゆとりある建物を建てることは至難の業でした。その後、都有地を借用できることになり、現在のように2号館と母子医療センターを北側に、外来棟を中央棟に隣接して建てるのが出来、上下通路によって、講座、外来棟、入院棟が連絡でき、病院は一体化できたのであります。先生の思いを我々が継承したことになったと考えています。

また、分院は地域中核病院として臨床に徹し、地域との連携を重んじられ、分院長は理事として理事会に出席できるようにし、病院運営の責任を明確にされました。

先生のご著書、“伝統と改革”や“医を考える”を読み返してみると、先生が物事を整理して、それぞれの位置づけを熟慮されていたことが良く分かります。まさに“岡村美学”、“岡村哲学”の原点がここにあるように思われます。先生は、若い時に心音図の開発などに従事され、医用工学(Medical Engineering, ME)に興味を持たれていました。音響には特に詳しく、ご自身はオーディオマニアで音楽を愛しておられました。大学1号館の机上マイクは先生が世界中を探して選定されました。また、映写機は最高級の機種を導入したのであります。先生が機械に強く、物理学的な思考を好まれていたことが、先生のお考えと深い関係があるものと推察します。

現在の大学、附属病院には先生のお考えが継承さ

れていると言ってよいと思います。伝統を継承すると共に、将来を見据えた改革が行われてきたのです。我々は、時代に相応しい組織運営を考え、伝統として継承すべきものと、改革すべきものを常に考え続け、組織の発展を目指す必要があると思います。

本号では、研究が取り上げられていますが、学長を中心に研究が振興されている現状を理解していただきたいと思いました。研究の在り方は研究者の考えによって多種多様ですが、分からないことを調べてみようという知的好奇心が原点であることは間違いのないと思います。最近では、研究成果を企業などと連携して更に発展させ、得られた知的財産を社会に還元することが重視されています。これには、大学だけでは実現困難な問題が多々あり、アカデミアと企業との協力が必要となります。本学でも、いくつかの興味ある成果が出つつあり、研究成果を社会実装するために何が問題なのか、特に単科医科大学における問題点について、藤田雄講師が分かり易く解説していて、慈恵としての産学連携の在り方と、我々でもできることについての考えが明確に述べられており、是非、多くの方に読んで頂きたいと思います。

現在、藤田講師のエクソソーム創薬研究講座の他に、疼痛制御研究講座、腎臓再生医学講座が設置されており、世界トップレベルの産学連携が展開されていることをご理解下さい。若い方が触発され、続いて欲しいと思います。

各講座などの伝統を継承した息の長い特色ある研究を尊重すると共に、新しい研究の芽を伸ばし、その成果を社会に還元できる研究が育つことを願っています。何れにしろ、研究のシーズが必要です。伝統の継承と改革、そして発展を目指して、日々、知的好奇心を持って励むことが大切だと思います。

01 巻頭言

伝統と改革……発展を目指して

学校法人慈恵大学 理事長 栗原 敏

巻頭特集

03

本学における産学連携の現状と将来

東京慈恵会医科大学 エクソソーム創薬研究講座 講師 藤田 雄

Ongoing

09 01 教育

「感染症医療人材養成事業」助成事業で目指している  
シミュレーション教育の環境整備

コロナ禍の経験を踏まえ、教室から医療現場へ繋ぐ  
実践的な教育方法の導入を進めています!

救急医学講座 講師 万代 康弘

11 02 研究

ヒトヘルペスウイルス6(HHV-6)の  
潜伏感染遺伝子SITH-1はうつ病を引き起こす  
—うつ病の原因遺伝子の発見—

ウイルス学講座 教授 近藤 一博

13 03 診療

急性大動脈スーパーネットワークの  
重点施設になりました。

心臓外科学講座 主任教授 國原 孝

Nursing

15 慈恵大学4つの看護基礎教育機関と  
4つの附属病院看護部の連携による  
「新人看護師移行期支援の活動」

地域連携看護学実践研究センター長 佐藤 紀子

PDCからPDCAへ

16

内部質保証の体制と事業計画について

学校法人 慈恵大学 内部質保証推進委員会 委員長 副学長 柳澤 裕之  
委員 小松 一祐

Column

17 「建学の精神」と「大学の目的・使命」の  
英語版の作成

副学長 柳澤 裕之

18 News Flash

- 9月 国立精神・神経医療研究センターとの教育・研究および医療・公衆衛生分野における連携協力に関する協定締結
  - 10月 第138回成医会総会  
「成医会優秀ポスター発表賞・成医会学生ポスター発表賞」の受賞について
  - 11月 第2回高木兼寛記念シンポジウム  
「岡村哲夫先生を偲ぶ会」を開催しました
  - 12月 学祖・高木兼寛没後100年記念講演会の開催  
史料室展示ケースの改修工事
- 2022年 主な行事予定表

24 Notice

- 大学公報(行事・公示・学事・計報・東京慈恵会公報)・補助金・助成金・公開セミナー等
- 寄付のお願い / ガバナンス(行動憲章 / 行動規範)・医療連携窓口のご紹介



# 本学における 産|学|連|携の 現状と将来



東京慈恵会医科大学  
エクソソーム創薬研究講座  
講師

藤田 雄

## 産学連携はなぜ必要か

日本のライフサイエンス研究は、ノーベル賞を数多く生み出す水準の高い基礎研究を有するものの、それを実用化(出口)に結びつける段階が弱いと言われ続けてきました。基礎研究から生まれたシーズを社会に適応する(いわゆる社会実装)に至らない有用な発見が数多く存在したことから、国家レベルで橋渡し研究

(トランスレーショナルリサーチ)の強化が必要と訴えられています。そこで重要になるのが、新技術の研究開発や新事業の創出を図ることを目的として、アカデミアなどの教育研究機関と民間企業が共同でプロジェクトを進める“産学連携”です。国立大学では2004年に法人化した頃から、アカデミアの研究成果を社会実装

するための産学連携の重要性が唱えられ、各大学の地域性や個性を生かした積極的な産学連携は、今や当たり前の時代となりました。

このような背景の中で日本政府も施策を打ち出し、日本医療研究開発機構(AMED)を主導としたアカデミアによる医療への出口を見据えたシーズ研究支援を行うとともに、こうしたシーズも活かしつつ産学連携による実用化研究・臨床研究を行うほか、研究開発に対する相談・助言等の伴走支援を行うことで、基礎から実用化まで一貫した研究開発の推進と成果の実用化を図る政策を進めています。また文部科学省・経済産業省から「産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン」も発表され、各大学が、研究活動により得られた成果、知的財産を公的機関や企業等連携して社会還元することを真剣に取り組み始めました。昨今は、その流れがさらに加速し、これまでの研究者個人と企業一組織の連携から、大学が企業と「組織」対

「組織」での本格的な産学連携と戦略的提携が進められ、大型共同研究の集中的マネジメント体制であるオープンイノベーション機構が各大学に設立され、持続可能な社会を見据えた課題設定段階からの連携が進められています。

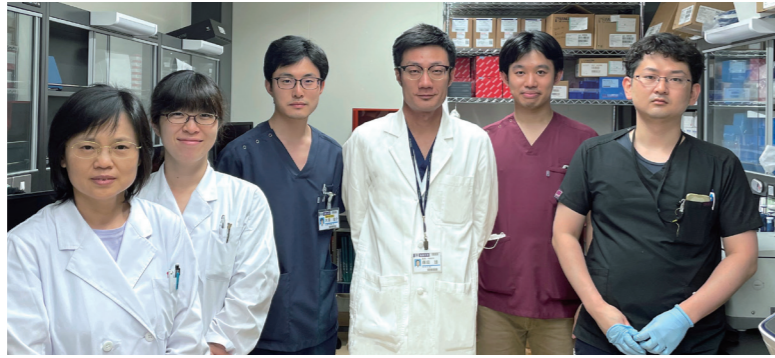
これらの新時代における産学連携の好循環(エコシステム)の形成は、学内研究・知的財産化の活性化、多様性のある人材育成、活発なベンチャー会社起業、またそれらが大学における教育・研究をさらに活性化させ、社会の中核的な知的集団としての大学が、社会の信頼を得つつ発展するための有益な手段であると言えます。したがって、大学がその社会的使命を果たす上で不可欠な大学自身の課題として、また学術研究の進展の重要なプロセスとして、より主体的、組織的に産学連携に取り組む姿勢が求められ始めました。

## 私立医科大学における産学連携の現状

では、私立医科大学における産学連携の現状はどうでしょうか。私立の単科医科大学である本学は、前述のような積極的に研究開発からのイノベーション創出に挑む旧帝国大学や総合私立大学とは状況が大きく異なります。私立医科大学の経営面でのリソースは、共同研究や知的財産権からの収益はごく一部であり、その主は附属病院における医療収入になります。そのため、企業との共同研究は推進しているものの、社会実装において重要な知的財産の管理体制やベンチャー設立支援は不足しがちで、本格的な産学連携に乗り出している私立医科大学は多くはありません。この点で今、“単科医科大学”と“医学部を持つ総合

大学”との間で産学連携の取り組みにおける違いが生まれ、結果的に医学研究の進展や社会実装に差が生じ始めています。例えば、今最も活発な領域であるデータサイエンスや人工知能(AI)の領域では、医学部を持つ総合大学において、臨床データを有する医師と理工学系研究者や企業などが参画し、新しい医療系ベンチャーや破壊的イノベーションを次々と生み出しています。そのような流れは、どの単科医科大学においても不足している傾向があります。産学連携の強化が、本学でも必要な方向性であるものの、単科医科大学だからできる産学連携の形を探る必要がありそうです。





本学で3番目に設立したエクソソーム創薬研究講座。呼吸器内科と連携し、研究を進めている。

## 本学における産学連携講座の例 —エクソソーム創薬研究講座—

本学は創立以来、建学の精神である「病気を診ずして病人を診よ」をモットーに、「病める人を全人的に診る医療」を実践し、我が国の医学・医療に貢献してきました。本学の使命は医学の教育・研究及び診療ですが、社会情勢の変化とともに、産学連携による研究成果を社会へ還元することも大きな役割と考えています。そのような背景から、2020年4月より産学連携講座制度が開始となり、同年10月にエクソソーム創薬研究講座が開設されました。

“エクソソーム”とは、全ての細胞が分泌するナノレベル(50~150nm)の小胞顆粒であり、長い間、細胞が分泌するゴミとして考えられてきました。



細胞から分泌されるエクソソームの電子顕微鏡像。直径50-150nmのナノ小胞であり、人体における様々な遺伝情報の送達に関与する。

しかし、このエクソソームがRNA、DNAやタンパク質などの遺伝情報を体内の細胞間で送受することで、生命の恒常性維持やさらには病気の進行にも関与している事実が浮き彫りになり、この研究分野が世界中で加速しています。我々は、エクソソーム研究の世界的権威である東京医大の落谷孝広教授との共同研究から、正常気道上皮細胞が分泌するエクソソームの集団が、いわゆる“善玉エクソソーム”として働き、肺疾患における治療薬としての有効性がある研究結果が得られました。本シーズの社会実装を目指し、エクソソーム製造技術を有する澁谷工業株式会社(本社:石川県金沢市)と共同研究を開始し、創薬開発を加速化させるために産学連携講座を設立するに至りました。講座のゴールとして、難病疾患である特発性肺線維症(IPF)の患者さんを対象に、このエクソソームを吸入薬として治療を行う、慈恵医大発の医師主導治験を目標といたしました。エクソソームを医薬品として用いる研究は、世界でもまだ探索相であり国内でも前例がなく、製造する医薬品の品質管理や規格に関するレギュラトリーサイエンスが未踏の分野であり、PMDAや厚生労働省とも連携を行っています。エクソソーム医薬品は、次世代の細胞自身を用いないセルフフリー(cell-free)治療として大きな期待を産業界からも受けています。



産学連携で開発する慈恵発のエクソソーム医薬品。次世代のセルフフリー治療として期待されている。

この研究課題はAMEDからの支援も受け、国、アカデミア、各企業の産学官が連携することで、日本で初めてとなる本医薬品の開発に取り組んで参ります。また、当講座では、創薬研究だけでなくエクソソームを利用した診断研究も積極的に行なっております。大学病院のメリットを生かし、臨床講座との連携によりがんや感染症患者の体液サンプルを利用し、エクソソーム診

断薬開発を学内共同研究として多数進めています。これら当講座のすべてのプロジェクトに参画する連携企業は、澁谷工業以外に現在11企業に上ります。これらの研究を通じて、本学におけるトランスレーショナルリサーチがより一層加速し、患者さんに届く医薬品および診断薬の開発の拠点になるように貢献していきたいと考えています。



## 産学連携の橋渡し体制

基礎研究で有用なシーズを発見し、企業との共同研究に繋がったとしても、医薬品、診断薬、医療機器の社会実装には、莫大な費用と時間が必要となり、多くの場合様々な支援体制に力を借りる必要があります。

特に単科医科大学の研究者には、学内で開発研究を経験した人材が少ないため、戦略的な“道先案内人”が必要になります。

を社会実装できる体制があります。現在、上園保仁教授によるがん支持・緩和療法に関する疼痛制御研究講座、小林英司教授による腎臓の再生医療実現を目指す腎臓再生医学講座が設立され、世界トップレベルの産学連携が学内で展開されています。これから

益々産学連携講座の設立が加速することにより、互いの人材交流が活発化し、出願件数や学内ベンチャー起業数の増加、患者さんに届く慈恵発の創薬、診断薬、医療機器の登場が期待されます。



図1:産学連携の橋渡し体制

これら開発を支援する組織として、全国の橋渡し研究支援拠点(Academic Research Organization (ARO))や知的財産の専門集団であるTechnology Licensing Organization (TLO)などは、開発方針のアドバイスや知的財産の活用、技術を導出するための企業との連携(出口戦略)をサポートしており、有用な手段になります。本学ではこれらの組織を自前では備えていないため、本学研究推進課・URAとともに近隣のAROやTLOと連携を行い、研究者の開発体制や知的財産の確保を整備していく必要があります。我々のエクソソーム創薬の場合、澁谷工業は製薬会社ではなく製造技術企業であるため、最終的な開発物を製薬企業へ導出する必要があります。連携したAROによるサポートを受け、多くの導出候補製薬企業との話し合いを行い、現在ある製薬企業との伴奏支援開発、導出に関する出口戦略の検討を行っています。

さらに昨今、資金調達を円滑に行うための学内ベンチャーの起業はニーズが高まって参りました。我々は、学内ベンチャーの設立には至りませんでした。これまで関連のあったベンチャー企業に技術移転という形で特許を移転し、創薬研究開発における資金獲得を行なっています。本学でも起業件数が増加傾向にあり、今後はさらなるベンチャーへの資金支援、起業家ネットワークの構築を含めた起業サポートが重要となってきます。

このように、企業との共同研究の延長と思われがちな産学連携ですが、そのゴールはあくまで社会実装であり、AROやTLOによる支援、知的財産戦略、大型公的研究費の確保、ベンチャー企業による資金獲得など、出口を見据えた研究体制の構築に大変な労力と時間が必要となります。本学の産学連携講座のシステムは、独立した講座として企業とともに有用なシーズ

## 慈恵だからこそできる独自の産学連携の形

私たち医学研究者は、患者さんのニーズ、臨床上の矛盾やunmet needを原動力として課題の解決に挑むことが重要であると考えています。このスタートから生み出された発見を社会実装するために、研究者が知的財産化への意識を高めることや、企業との早期連携を行うことで、患者さんに還元できる研究開発はより一層進められると考えられます。一方で、長期的な産学連携発展を模索した時に、個人の研究者の能力に依存する産学連携では、学内全体としての知の好循環(エコシステム)は創出されにくいことが予想されます。またこれまで述べた産学連携の支援体制に関しても、産学連携に初期から取り組んできた旧帝大を中心とした一部の大学と、それ以外の大学における体制の差があまりに大きい現状があります。

医科大学だからこそできる独自路線とは何か、慈恵の先人が実践されたことを考えるとき、その答えは、患者さんにあると確信します。創立以来の精神である病気に苦しむ人と向き合う臨床医学を基本とし、患者さんの訴えやデータ、医療現場における課題から研究のシーズを拾い上げる。そして、どのような技術や企業連携があればそれが実現できるか、医師やスタッフ、企業研究者、学内ベンチャーが互いにアイデアを出し合い、慈恵発のイノベーションを臨床に還元する産学連携体制の新しい仕組み作りがいま必要であると思います。例えば、研究者などと様々な分野の企業、技術

者、行政を相互に結びつけ、戦略的に課題解決に取り組む“ハブ組織”のようなものを病院内に設置するのも一つの方法かもしれません。ここから創出されるものは、“病気”に対する治療薬、診断薬、医療機器開発にとどまらず、苦しむ“病人”のあらゆる手助けとなる次世代型医療としての可能性を十分秘めています。

今後は基礎研究シーズからの社会実装に加え、患者さんと向き合うことを起点とした独自の産学連携は、組織における知のエコシステムを創出し、研究者のみならず慈恵の医療業務に携わる全てのスタッフが、一人一人の意識と意欲を高め合い、産と学を両輪として課題解決に取り組むことを可能とし、自らがエンジンの役割を担うことができると思います。これまでの本学独自の発想に基づく息の長い独創的な研究によるシーズ発掘を継続しつつ、患者さんの痛みに向き合うことから生まれる医療イノベーションの創出は、慈恵だからこそできる研究の社会還元の道筋だと考えます。





# 01 Ongoing 教育

救急医学講座  
講師 万代 康弘



「感染症医療人材養成事業」助成事業で目指している  
シミュレーション教育の環境整備

## コロナ禍の経験を踏まえ、 教室から医療現場へ繋ぐ実践的な 教育方法の導入を進めています！

### 文部科学省補助 「感染症医療人材養成事業」について

2020年から始まった新型コロナウイルス感染拡大において、医療現場は刻々と変化する状況に対応を迫られました。また教育現場においても臨床実習は一時中断を余儀なくされ、急遽遠隔を用いた講義等への対応が必要となりました。しかし卒前教育における知識教育においては遠隔授業への代替えが可能ですが、医療現場に立つための技能の教育においては講義だけでは十分ではありません。感染拡大下では臨床現場での教育現場は制限を受けたため、医療現場に近い医療現場ではない教育環境が必要となってきました。

この状況下で、感染対策を踏まえた診察技能など、感染拡大下において新たに必要とされるスキルの習得や診療技術の質を落とさないトレーニングを目指すと同時に、医療現場での感染リスクを最小限にする必要があり、シミュレータを使った教育や映像技術を使った自己学習、遠隔授業等の教育環境整備が必須となり、文科省からの事業公募がありました。令和2年に医学部を有する国公立大学30大学に約1.25億円の補正予算が策定され、本大学はこの事業に申請、採択されました。

### シミュレーション教育とは

シミュレーション教育の最大の特徴は、臨床現場で起き

た状況や、起き得る状況を再現することで、臨床現場に近い教育環境で繰り返し練習を行うことができます。そのことから、教室から臨床現場に繋がる教育方法として知られています。海外では臨床現場に立つ前にトレーニングを行うことはもちろん、医療現場で働く医療従事者においても、急変時対応シミュレーション教育や多職種連携シミュレーション教育などが行われております。

学生教育では国際基準を踏まえた医学教育分野別評価においても、臨床実習前のトレーニングと評価、臨床実習中のトレーニング、卒業時の技能・態度評価においてシミュレーション教育は必須であり、卒業後の臨床現場に繋ぐ効果的な教育方法としても大切な要素となってきております。

### シミュレーション教育の実例



### 事業での取り組み

今回の事業の4つの柱として、以下の項目を定めて活動を行っております。

- ①現在のシミュレータ、シミュレーション教育機器の充実
- ②感染対策シミュレーション教育の導入
- ③遠隔、自己学習を見据えた将来のシミュレーション教育開発
- ④教育効果測定を試み、教育研究への挑戦

今回の事業では今まで行っているシミュレーション教育を継続していくための機器充実とともに、新しいニーズとして医療者の感染対策に対する教育を行うことと、医学生の感染対策の技能教育は、感染拡大下では喫緊の課題であるため、感染対策シミュレーション機器を充実させました。さらに我々の大きな目標として患者安全を目指した医療人材養成であり、医療者個々の感染対策を踏まえ、診察技能や診療技能向上を目標としたトレーニングプログラムが必要であり開発・実施しました。

また今回のように未知の感染症拡大下で臨床現場での実習が中断せざるを得ない状況においても技能学習をとめない学習ツールの開発を行っています。既存の教育ツールを使用することだけでなく、独自で開発したVR機器を用いた教材開発が本事業の1つの大きな特徴です。シミュレーション教育は今後もテクノロジーの進化とともに更なる発展の可能性がある教育方法であり、遠隔技術を用いた教育手法なども今後は注目されているところです。

④に記載した教育効果測定について、海外ではシミュレーション教育の研究が進んでいますが、本邦ではまだまだ遅れている分野です。教育研究を進めるうえでも教育効果測定に挑戦することは大切なステップであり、将来のシミュレーション教育を普及していく上においても大切な視点と考え、大きな目標と定めて活動を行っております。

学生へのVRを使用した  
心肺蘇生シミュレーション教育



感染病床の看護体験  
シミュレーション教育



### コロナ禍の経験から今後のシミュレーション教育

臨床現場での学生だけでなく、医療従事者においても感染リスクを減らすために臨床現場の時間を減らす必要があります。今までのベッドサイドにおける指導は制約を受ける中、医療安全・患者安全を目指した教育は止まることはできません。むしろ更に教育を進めていく必要があります。

アフターコロナとして今後の教育現場では、コロナ禍までの教育手法に単に回帰することではなく、新しく得た教育手法を如何に利用するかということが問われます。過去の教育手法の特徴を生かしつつ、新しい教育手法の融合を行うことで、進化した教育プログラムを独自開発することが大切だと考えており、実践力を磨く方法としてシミュレーション教育は外すことはできません。

今回の事業で整備したシミュレーション教育機器やコンテンツ、運営システムを用いた教育活動を継続することが、文部科学省からの事業目標として示された「今後も起き得る未知の感染症のパンデミック下においても教育の質を落とさない」という道筋に繋がると考えており、我々は更に発展した教育方法としてのシミュレーション教育の開発を継続することがこの事業の採択を受けた責務と考え、今後もシミュレーション教育活動を継続してまいります。

### 感染対策を踏まえた緊急対応 研修医シミュレーショントレーニング



### 遠隔での多職種シミュレーション教育







# ヒトヘルペスウイルス6 (HHV-6) の 潜伏感染遺伝子SITH-1は うつ病を引き起こす —うつ病の原因遺伝子の発見—

## はじめに

多くの疾患が未だ原因不明のまま残されている。これらの原因究明のために世界規模の遺伝子解析研究が行われた。しかし、多くの疾患関連遺伝子が見つかったものの、そのほとんどが効果の小さい遺伝子で、ヒトゲノムの研究は、期待された程には、疾患の原因遺伝子の発見には繋がらなかった。うつ病の遺伝子に関しては、有効な関連遺伝子は一つも発見されなかった。また、腸内細菌などのマイクロバイオーーム研究も、うつ病の原因の特定には至っていない。

今回の我々のうつ病の原因遺伝子SITH-1の発見は、うつ病の発症に関して非常に大きい効果を持つ遺伝子を、ヒトと共生するウイルスであるヒトヘルペスウイルス6 (HHV-6)の遺伝子の中に見つけたというもので、うつ病の原因を明らかにするだけでなく、疾患の遺伝子研究において、新たな方向性を拓く研究と考えられる。

## うつ病の原因遺伝子 SITH-1の同定と機能解析

HHV-6は、小児期に突発性発疹として感染し、ほぼ100%のヒトで潜伏感染している。潜伏感染中のHHV-6はいったん唾液中に再活性化し、鼻腔から脳の一部である「嗅球」に達して、ここでも潜伏感染する。そこで我々

は、HHV-6が嗅球で潜伏感染する際に発現する遺伝子とそこにコードされる159アミノ酸からなるタンパク質を同定し、SITH-1と名付けた。

SITH-1の機能を検討したところ、細胞内へのカルシウム流入を促進し、アポトーシスを誘導した。また、実験的にマウスの嗅球でSITH-1を発現させると嗅球にアポトーシスが誘導され、脳のストレスが亢進することでうつ病様の病態を呈することが判った。

## 血液検査による SITH-1診断法の開発

このようなSITH-1発現がヒトのうつ病でも生じているかどうかを検討しようと考えた。しかし、SITH-1は嗅球で発現するため、直接的にSITH-1発現を検討するには倫理的に大きな問題があった。

我々は、SITH-1がカルシウム流入を促進する際の立体構造を明らかにし、この活性化型SITH-1の構造に対する抗体を測定することで嗅球でのSITH-1の発現を調べる方法を開発した。

## うつ病患者への SITH-1の影響

この活性化型SITH-1に対する抗体を測定する方法を用

いて、健常人とうつ病患者におけるSITH-1発現を調べた。その結果、うつ病患者は健常人に比べてSITH-1発現量が非常に多いことが判った(図1)。

計算すると、うつ病に何倍なりやすいかという数値(オッズ比)は12.2もあり、SITH-1陽性者の頻度も79.8%ととても高い数字であった。これは簡単な言葉で表すと、SITH-1はヒトを12.2倍うつ病になりやすくさせ、79.8%のうつ病患者がSITH-1の影響を受けているということになり、これまでに発見されている疾患の原因遺伝子の中でも最大級の影響を持つ遺伝子であると言える。

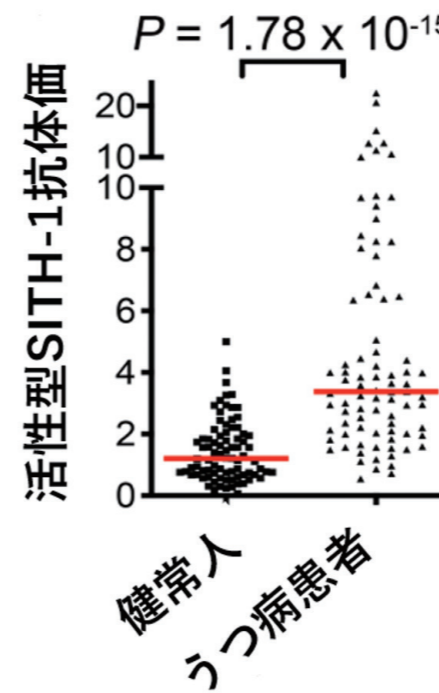


図1: うつ病とSITH-1

## まとめ

これらの結果から、今回我々が発見したSITH-1遺伝子は、うつ病の発症に大きな影響を持つ遺伝子であることがわかった。

我々はこれまでの研究で、SITH-1発現のもととなる唾

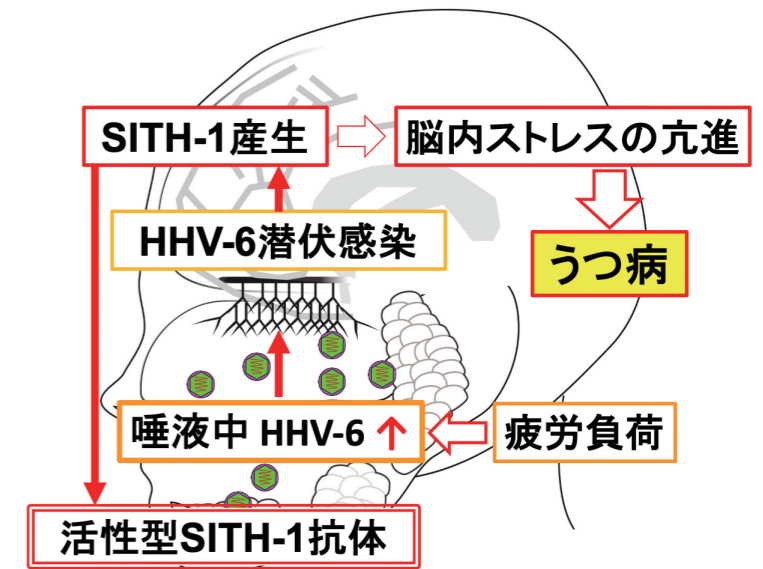


図2: SITH-1によるうつ病発症機構

液中のHHV-6が疲労によって増加すること発見しているため、SITH-1は疲労とうつ病をつなぐ鍵になる可能性がある。

また、SITH-1のうつ病発症に対する影響は非常に大きく、SITH-1によるうつ病発症のメカニズムの解明とSITH-1に対する治療薬の開発は、うつ病の正体を明らかにし、根本的な治療法の開発に繋がるものと考えられる。

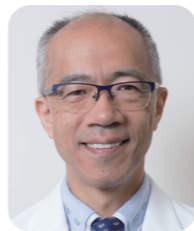
## おわりに

かつて学祖・高木兼寛先生は、脚気が細菌によって生じるという常識を覆してビタミンの発見を導かれた。本研究は、心理学的要因や環境要因によってうつ病が生じるという常識を覆そうとするものであり、慈恵医大らしい研究なのではないかと考えている。

## 【参考文献】

Kobayashi N, Oka N, Kondo K et al. Human Herpesvirus 6B Greatly Increases Risk of Depression by Activating Hypothalamic-Pituitary -Adrenal Axis during Latent Phase of Infection. *iScience*. 2020 Jun 26;23(6):101187. doi: 10.1016/j.isci.2020.101187. Epub 2020 May 21.





心臓外科学講座  
主任教授 國原 孝

## 急性大動脈スーパーネットワークの 重点施設になりました。

### 大動脈緊急症とは？

緊急に治療を要する大動脈疾患としては大きく分けて急性大動脈解離と大動脈瘤破裂が挙げられます。急性大動脈解離はさらに上行大動脈に解離が及んでいるか否かによってスタンフォードA型とB型に分けられます(以後、A型、B型と略します)。A型急性大動脈解離は非常に予後が悪く、手術をしないと一時間あたり1%の患者さんが死亡するため、二日間で約半数の患者さんが死亡すると報告されています。そこで、A型急性大動脈解離は診断され次第、緊急手術が大原則となっています。一方、B型急性大動脈解離は予後が良好であり、通常は内科的治療を適用し、大動脈破裂を防ぐために血圧を厳重に管理することになります。しかし解離によって臓器への血流が障害されるようであれば、手術あるいはカテーテル治療が必要になります。大動脈瘤破裂は通常は緊急手術が必要となりますが、部位によってはカテーテル治療が適用され手術侵襲軽減に大きな役割を果たしています。従ってこのような重篤な患者さんをいかに速やかに適切に加療できるかということが、その治療成績向上のためには重要な鍵を握ることになります。

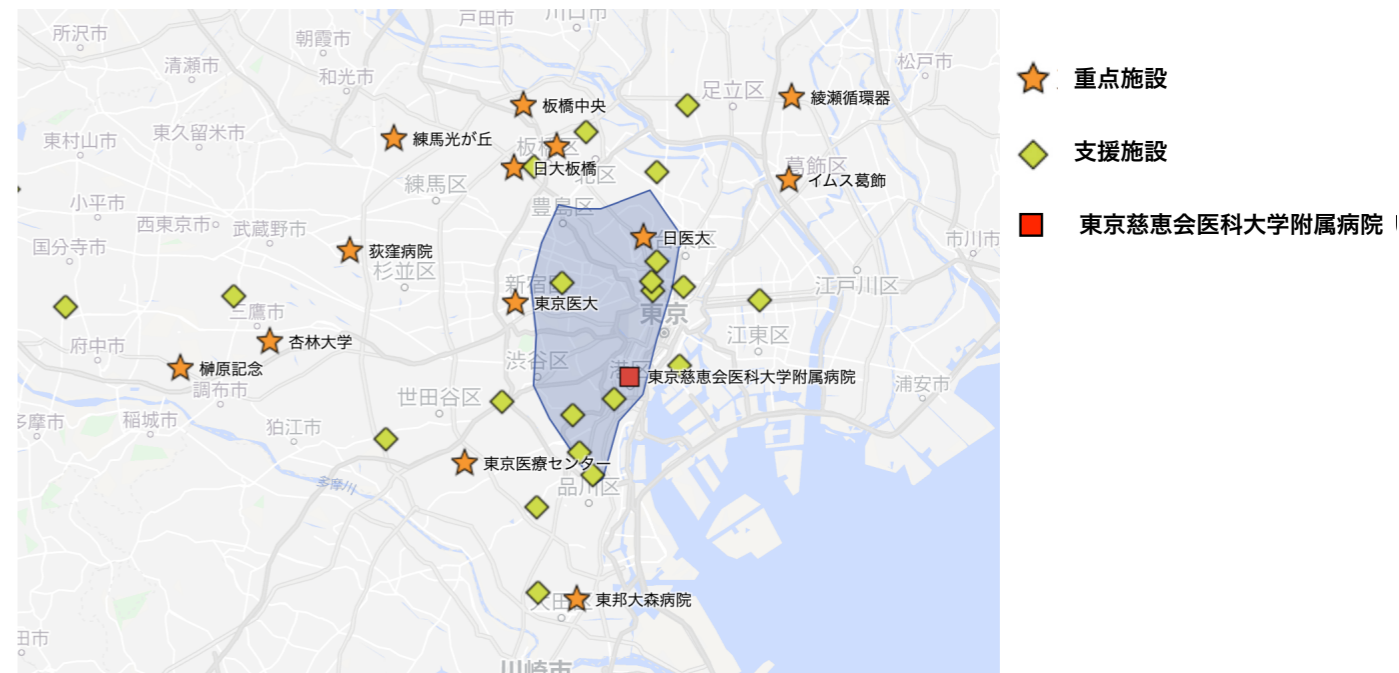
### 急性大動脈スーパーネットワーク

急性心筋梗塞を中心とする急性心血管疾患に対し、迅速な救急搬送と専門施設への患者収容を目的に、東京都CCUネットワークが1978年に東京都によって設立されました(CCU: coronary care unit)。このネットワークは、医療施設のみならず東京消防庁、東京都医師会な

らびに東京都健康局(現 東京都福祉保健局)との共同の活動であり、東京都の特殊救急事業として位置付けられています。その後このネットワークは着々と拡がりを見せておりましたが、大動脈緊急症に対しては専門の技術を有する外科スタッフが所属する施設へ速やかに搬送する必要性が生じてきました。そこで緊急大動脈疾患に対しより効率的な患者搬送システムを構築するために2010年に急性大動脈スーパーネットワークがスタートいたしました。加入施設は急性大動脈疾患の入院・手術を毎日24時間受入可能な重点施設と、優先的に受入可能な支援施設に分けられます。2021年7月1日現在、14の重点施設と26の支援施設が登録されています。東京慈恵会医科大学附属病院は2016年7月5日より支援施設として参画し、積極的に救急搬送を受け入れてきたことが評価され、ちょうど5年後の2021年7月1日に重点施設に移行いたしました。図を参照すればわかるとおり、重点施設は都心と離れたところに点在しており、山手線の内側にあるのは当院と日本医科大学付属病院の2施設だけです。したがって山手線内側の南半分の住民の健康を守る当院の使命は重大です。

### 当院における受け入れ態勢

大動脈緊急症に速やかかつ適切な治療を施すにはチーム医療が不可欠です。関連部門として救急部、心臓外科、血管外科、循環器内科、麻酔科、集中治療部、CCU、脳神経内科、脳神経外科、リハビリテーション科、手術部、看護部、臨床工学部、放射線部、輸血部など多岐に渡ります。ネットワーク加入にあたり、これらの各部門



図：急性大動脈スーパーネットワーク加盟施設の分布  
濃い色は山手線の内側を示す  
(Googleマイマップで作成)

が相談し、患者受け入れのフローチャートを作成しました。このフローチャートはその後も改変を経て、いまま緊急症例の速やかな受け入れに寄与しています。また、チーム内のコミュニケーションツールとして活用されているのがJOINという当院を中心に開発されたスマホアプリです。このアプリ内に急性大動脈スーパーネットワークのグループが作成され、チームのメンバーが所属しており、なにかしらのメッセージが投稿されるとメンバーのスマホにアラートが表示される仕組みです。例えば消防庁からの収容依頼を救急部の医師が受けると、まずこのJOINに一報を流し、各部門が一斉に反応するといった具合です。このような情報共有の仕組みは、重篤な症例に迅速に対応して救命率を上げることに少なからず一役買っています。

### コロナ禍の影響

当院は地域の基幹病院という性格上、これまで少なからぬコロナウイルス感染患者を受け入れてきました。最盛期は重症患者でICUが占拠され、定時手術すらままならないことがありました。それが下火になってからも、緊急手術症例はコロナウイルス感染を完全に否定しきれないため、陰圧室で嚴重な感染対策下で手術し、術後は個室

で対応する必要性がありました。当院の陰圧手術室やICUとCCUの個室には限りがありますが、一方でわれわれも地域住民を守る使命を感じ、急性大動脈スーパーネットワークの患者受け入れをなんとか継続して参りました。今後再びパンデミックが襲って来る可能性は十分考えられますが、そのような状況下でも、当院の使命を果たすべく、チーム一丸となって対応して参りたいと思っております。

### おわりに

このように重症な緊急患者を迅速に受け入れ、なおかつ適切な治療を施すには、多岐に渡る分野によるチーム医療が不可欠なことがわかりいただけたと思います。それを可能にするのがわれらが「ONE JIKEI」の精神であり、「慈愛」の精神なのだと思います。もし万が一皆様のお知り合いの方が大動脈緊急症を発症したとしても、当院の優秀なチームが治療に当たり、無事ご自宅にお返しすることができれば幸いです。



# 慈恵大学4つの看護基礎教育機関と 4つの附属病院看護部の連携による 「新人看護師移行期支援の活動」



地域連携看護学実践研究センター長  
佐藤 紀子

地域連携看護学実践研究センター(Jikei Academic Nursing Practice for the Community: JANP センター)は、2018年度に国領キャンパス看護学科内に設立されました。「地域住民の生きる力を看護の力で支える」ことを目指し、「みんなの活動」「みんなの学び場」「みんなの保健室」の3つの活動を行っております。その活動の一環として、2020年度から世界中でパンデミックを引き起こしたCOVID-19の感染拡大により、大きな影響を受けた医療を支える看護職、特に社会人として仕事を始める新人看護師への支援を行いました。

これまでも新人看護師が社会人として職場に適応するには多くの困難があることが指摘されております。特に、教育機関で学んだ看護学の実践と現場の看護業務の乖離が大きく、いわゆるリアリティショックによる退職者が例年一定数存在してい

る現状が続いておりました。そして2019年12月に中国武漢市から全世界へと大流行を引き起こしたCOVID-19により、医療機関のみならず看護基礎教育を学ぶ学生たちは大きな影響を受けております。2020年度の新人看護師は、病院がCOVID-19対策に翻弄されるなかで就職し、不安の中で初年度を迎えました。続く2021年度の新人看護師は、基礎教育での教育や実習経験が不足しており、個々の新人看護師の置かれた状況はそれぞれ異なり多様でした。本学の4つの附属病院には363名の新人看護師が就職しました。

これに先立ち2020年度はJANPセンターの活動として、看護学科教員が葛飾医療センターの新人看護師の技術支援とメンタルサポート支

援を行ないました。そこで2021年度は4つの教育機関教員が4つの病院看護部と連携・協働した新人看護師支援活動に取り組みました。この活動はそれぞれの機関のプロジェクトメンバーが中心となって実施しました。教員は各病院の看護部と調整を行い、4月から6月にかけて各病院に就職した363名に対し、配属部署ごとに小グループでの対話型ディスカッションを企画し、各部署を訪問しました。新人看護師が安心して、自由に気持ちを吐露できる場所となるよう不安や困りごとを聞き、実践での経験を共有し、これからのキャリアを語る場として対話型のインタビューを行いました。そしてその場でのディスカッションの内容をクラウド内に記録として残し、プロジェクトチーム内での共有を図り、必要時管理者にも情報提供を行い、個別支援や組織的な対応へとつなげました。

2022年度入職予定の新人看護師は、基礎教育機関における学びの格差がさらに拡大し、個別的な支援がより求められることが推察されます。

今回の活動は4つの附属病院の看護部と4つの教育機関の教員の力を合わせたダイナミックな活動となりました。次年度は今年度の評価をもとに計画を立案し、実施・評価して予定しております。



教員が病棟に出向き、新人看護師の話を聞いている様子



# PDCから PDCAへ

## 内部質保証の体制と 事業計画について



学校法人 慈恵大学  
内部質保証推進委員会  
委員長 副学長  
柳澤 裕之  
委員  
小松 一祐

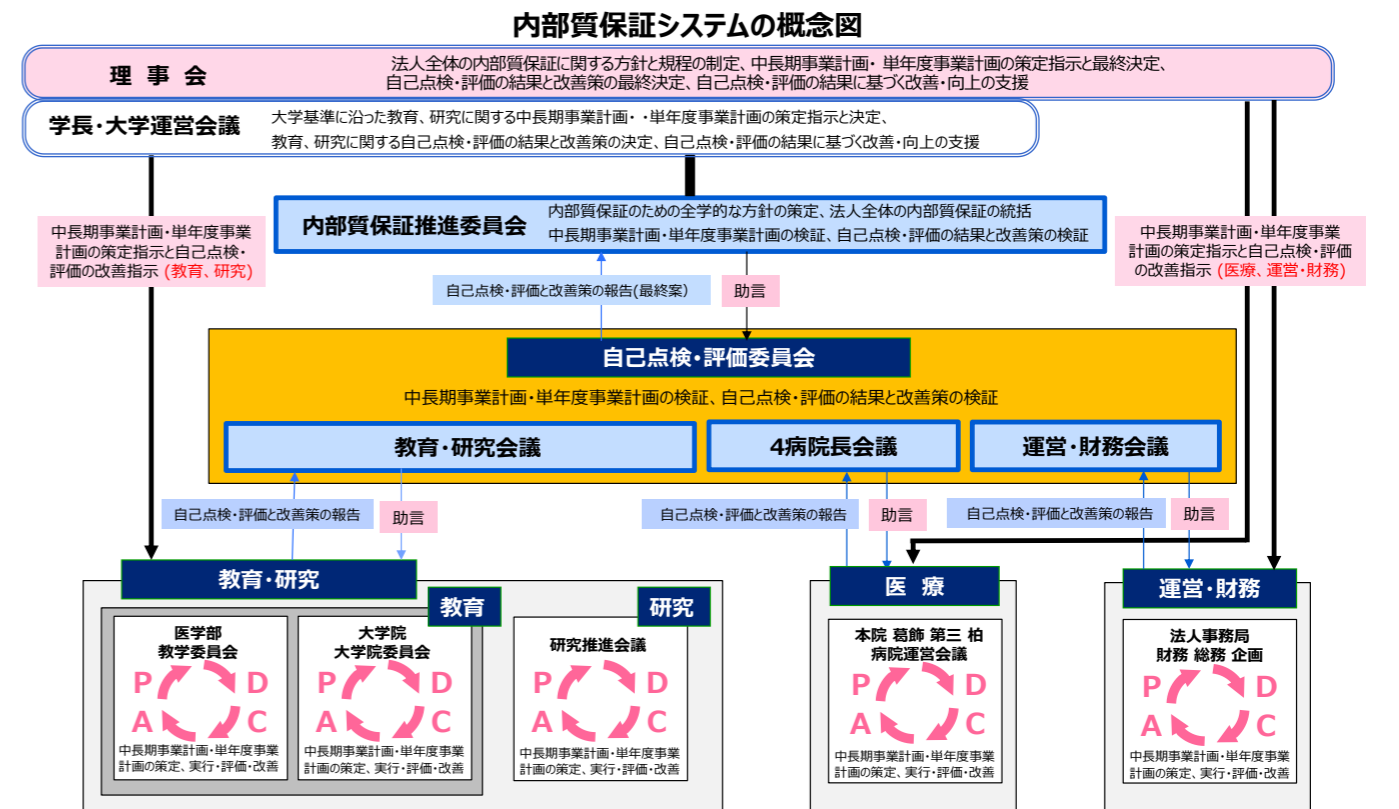
学校法人慈恵大学内部質保証推進委員会は、2023年秋に予定されている大学基準協会による認証評価の対応を進めています。前回のThe Jikeiでは作成途上の内部質保証に関する概念図を示しましたが、去る2021年12月23日の理事会で、内部質保証の体制と方針の最終案が承認され決定しましたので、その概要を紹介し、事業計画との関連を説明いたします。

法人運営・財務に関しては運営・財務会議がPDCAを支援します。最終的な事業計画、自己点検・評価と改善は委員会がとりまとめ、理事会が決定することになりますが、教育、研究については大学運営会議の議を経て学長が決定します。

### 2. 事業計画と内部質保証

本学は、2022～2027年度の6年間の中長期事業計画を策定しており、それに基づく2022年度の単年度計画を作成しています。これらの事業計画は、各部署(医学部、大学院、看護専門学校、研究推進会議、附属4病院、法人事務局)が立案し、教育・研究会議、4病院長会議、運営・財務会議が検証し、委員会がとりまとめ、大学運営会議と理事会に報告し、承認となった場合、最終決定となります。決定された事業計画については、各部署が実行し、その経過や結果について自己点検・評価を行い、改善案を作成すること(PDCA)になります。

このような事業計画をもとに継続的なPDCAサイクルを機能させることが内部質保証であり、それらの活動を通して、本学の建学の精神、目的・使命の実現に繋げるものです。





# 「建学の精神」と「大学の目的・使命」の英語版の作成

副学長 柳澤 裕之

本学では、昨年度から「建学の精神」と「大学の目的・使命」に関して議論がなされ、「建学の精神」を大学の理念とすることが確認され、解説文が付されるとともに、「大学の目的・使命」が教職員・学生をはじめ学外関係者にも共有できる表現に改められました。

このたび、「建学の精神」と「大学の目的・使命」を国内外に発信するために、「建学の精神」と「大学の目的・使命」の英語版を作成いたしました。作成に際しては、学内の関係者から貴重なご意見をいただきました。

広く活用していただきたく、以下にご報告いたします。

## 「建学の精神」「大学の目的・使命」英語版

<p><b>建学の精神</b> 病気を診ずして病人を診よ</p>	<p><b>Founding spirit</b> Treat the patient, not the disease</p>
<p><b>解説</b> 建学の精神「病気を診ずして病人を診よ」は、創設者高木兼寛が目指した「医学的力量のみならず、人間的力量をも兼備した医師の養成」を凝縮したものである。この精神は看護学教育にも「病気を看ずして病人を看よ」として取り入れられている。本学の研究と医療を通じた社会貢献もこの精神のもとで行われる。</p>	<p><b>Explanation</b> The founding spirit, ‘Treat the patient, not the disease’, is a condensed version of the goal of our founder, Kanehiro Takaki, to ‘train doctors who have medical and human abilities’. This spirit is also incorporated into our nursing education as ‘Care for the patient, not the disease’. The University’s contributions to society through our research and medical practice are also made with this spirit.</p>
<p><b>大学の目的・使命</b> 建学の精神「病気を診ずして病人を診よ」に基づき、医師・看護師の育成、医学・看護学研究の振興、医療の実践を通して人類の健康と福祉に貢献することが本学の使命である。</p>	<p><b>University purpose/mission</b> The mission of our University, based on the founding spirit of ‘Treat the patient, not the disease’, is to contribute to the health and welfare of humankind through the education of doctors and nurses, the promotion of medical and nursing research, and the practice of medical care.</p>



成医会講習所  
(1881年創立、本学の起源)



成医会講習所跡の記念碑

# The JIKEI News Flash

慈恵大学で開催された様々なイベントをご紹介します。

2021年7月～2022年1月

9月

## 国立精神・神経医療研究センターとの教育・研究および医療・公衆衛生分野における連携協力に関する協定締結

精神・神経疾患の研究・診療拠点である両機関が連携協力して2022年4月連携大学院を開設

9月21日(火)国立精神・神経医療研究センターとの間で、連携協力に関する協定を締結した。協定に基づき本学大学院医学研究科 医学系専攻に連携大学院(脳病態制御学)を開設し、2022年4月から学生の受け入れを開始する。両機関が連携協力して教育・研究活動を推進し、精神・神経疾患の研究・診療に従事する優れた専門家の育成を通じて、更に関係を深めていく予定である。



(写真左から)  
東京慈恵会医科大学 精神医学講座 繁田雅弘 教授  
東京慈恵会医科大学 松藤千弥 学長  
国立精神・神経医療研究センター 中込和幸 理事長  
永田充生 企画戦略室長  
鬼頭伸輔 第一精神診療部長  
久我弘典 企画医療研究課長

(写真左から)  
東京慈恵会医科大学 松藤千弥 学長  
国立精神・神経医療研究センター 中込和幸 理事長



## 第138回成医会総会「成医会優秀ポスター発表賞・成医会学生ポスター発表賞」の受賞について

10月

一般演題に51題の応募があり、6篇が選出され、松藤千弥会長より賞状及び副賞が授与される

「成医会優秀ポスター発表賞」及び今年度より創設された「成医会学生ポスター発表賞」(演題代表者が本学医学部学生に限る)は、ポスター発表のさらなる発展と発表者の意欲を高める目的で、一般演題(示説発表)より各3篇を選び、授与されるものであります。

第138回成医会総会においては、一般演題(示説発表)に51題の応募があり、次の6篇(「成医会優秀ポスター発表賞」「成医会学生ポスター発表賞」各3篇)が選出され10月8日(金)、松藤千弥会長より賞状及び副賞が授与されました。

### 【成医会優秀ポスター発表賞】(3篇)

受賞演題1 「異種動物の腎発生機構を利用した腎間質とネフロンへの再生への挑戦」

齊藤弥積<sup>1</sup>、山中修一郎<sup>1</sup>、松井賢治<sup>1</sup>、松本直人<sup>1</sup>、高村毅<sup>1</sup>、藤本俊成<sup>1</sup>、田尻進<sup>1</sup>、松本啓<sup>1</sup>、小林英司<sup>2</sup>、横尾隆<sup>1</sup> 殿 (1.腎臓・高血圧内科 2.産学連携講座 腎臓再生医学講座)

受賞演題2 「病原体媒介蚊の吸血を正・負に制御する宿主血液成分の同定」

佐久間知佐子<sup>1,2</sup>、岩本武夫<sup>3</sup>、嘉糠洋陸<sup>1,2</sup> 殿 (1.熱帯医学講座 2.先端医学推進拠点 衛生動物学研究センター 3.総合医科学研究センター 基盤研究施設)

受賞演題3 「慢性閉塞性肺疾患(COPD)合併サルコペニア発症へのParkin介在性ミトファジーの関与」

伊藤晶彦<sup>1</sup>、橋本典生<sup>1</sup>、谷端淳<sup>2</sup>、松林沙知<sup>1</sup>、佐々木諒子<sup>1</sup>、藤本祥太<sup>1</sup>、川本浩徳<sup>1</sup>、渡邊直昭<sup>1</sup>、門田宰<sup>1</sup>、藤田雄<sup>1</sup>、伊藤三郎<sup>1</sup>、竹越大輔<sup>1</sup>、皆川俊介<sup>1</sup>、沼田尊功<sup>1</sup>、原弘道<sup>1</sup>、松岡竜輝<sup>3</sup>、宇高潤<sup>3</sup>、荒屋潤<sup>1</sup>、齋藤充<sup>3</sup>、桑野和善<sup>1</sup> 殿 (1.呼吸器内科 2.細胞生理学講座 宇宙航空医学研究室 3.整形外科学講座)

### 【成医会学生ポスター発表賞】(3篇)

受賞演題1 「ゲノムの安定化におけるリン酸化酵素DYRK2の機能解析」

河村明良<sup>1,2</sup>、吉田彩舟<sup>2</sup>、吉田清嗣<sup>2</sup> 殿 (1.医学科5年 2.生化学講座)

受賞演題2 「黄色ブドウ球菌における細胞壁のアセチル化は溶菌を促進する」

馬場有夢<sup>1,2</sup>、千葉明生<sup>2,3</sup>、小貫友暉<sup>1,2</sup>、金城雄樹<sup>2,3</sup> 殿 (1.医学科4年 2.細菌学講座 3.先端医学推進拠点 バイオフィーム研究センター)

受賞演題3 「一過性の心筋長過伸展はPKA活性化を介して弛緩速度を増大させる」

竹尾真<sup>1</sup>、草刈洋一郎<sup>2</sup>、暮地本宙己<sup>3</sup>、ヌール カティージャ モフド ジーン<sup>3</sup>、南沢享<sup>3</sup> 殿 (1.医学科6年 2.教育センター 3.細胞生理学講座)



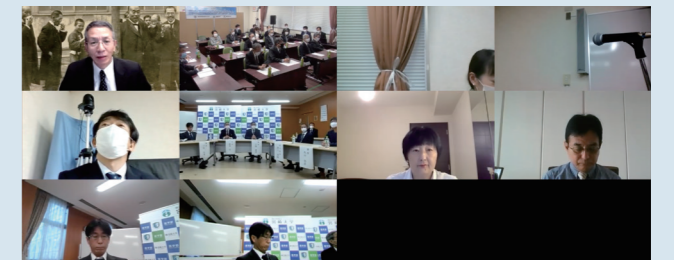
11月

## 第2回高木兼寛記念シンポジウム

テーマ:「コロナ禍での医療者教育の取り組み:特に実習に関して」  
鹿児島大学、宮崎大学、本学合同にて、オンライン形式で開催

総合医科学研究センター  
分子遺伝学研究部 教授  
玉利 真由美

2021年11月23日に鹿児島大学、宮崎大学との包括的連携協定に基づく学術交流の一環として第2回高木兼寛記念シンポジウムがオンライン形式により開催されました。鹿児島大学との第1回合同シンポジウムは、2019年7月5日に本学にて行われ、第2回シンポジウムが昨年7月に鹿児島で開催される予定でしたが、延期となっていました。今回より宮崎大学が加わり、100名以上が参加してシンポジウムが開催されました。テーマは「コロナ禍での医療者教育の取り組み:特に実習に関して」であり、各校から1名の先生が発表を行いました。鹿児島大学からは八代利香副学部長が「コロナ禍でのチーム医療実習の取り組み:バーチャル教材を用いた専門職連携教育(IPE)と発展的構想」について、離島医療をテーマに米国、韓国、日本の看護学生がWebで交流しながら授業を行った事例などが発表されました。当大学からは大石公彦小児科教授が「指導医として経験したニューヨーク市の新型コロナウイルス感染症パンデミック」について講演されました。臨場感あふれる内容で、病院の迅速な対応、リーダーシップなど米国の強みを感じる発表でした。また宮崎大学からは小松弘幸医療人育成センター教授が「コロナ禍における宮崎大学の臨床実習・臨床研修への取り組み~遠隔・分散教育と実地教育に対する医学生、研修医、指導医の本音」と題し、当事者に対する詳細なアンケート結果を交えながら、コロナ禍での医学教育のあり方について講演されました。全ての講演が大変興味深く、活発な議論も行われ、あっという間に2時間が経過し、次回は鹿児島で第3回のシンポジウムを行う予定として閉会となりました。多くの学びを得ることができる、また教育、研究における相互の協力関係の発展性を感じる貴重な機会となりました。本シンポジウムの開催にご尽力いただいた3校の関係者の先生方、また事務担当者の方々に深謝いたします。





11月

## 「岡村哲夫先生を偲ぶ会」を開催しました

東京慈恵会医科大学第九代学長、元理事長、名誉教授、顧問・岡村哲夫先生は病気ご療養中のところ、令和3年8月3日(火)にご逝去なさいました。享年91歳でした。

先生のご遺志によって、ご葬儀はご親族のみで執り行われましたが、先生のご遺徳を偲び、令和3年11月27日(土)に大学主催の「岡村哲夫先生を偲ぶ会」を栗原敏理事長が実行委員長となり、大学1号館講堂で行いました。

当日は晴天に恵まれ、定刻前から参列者が続々とつめかけました。

祭壇は、岡村哲夫先生の笑顔の遺影が、気品溢れるたくさんの白い花で囲まれ、先生の嗜好品も供えられて格調高いものでした。会場の周りには、先生ゆかりのパネルや書籍、写真が数多く展示され故人を偲びました。

偲ぶ会は、午後3時、司会の谷口郁夫専務理事より、開式の辞が告げられた後、全員が故人の冥福を祈って黙祷しました。続いて吉村道博内科学講座担当教授(循環器内科)より故人のご経歴が紹介されました。その後、栗原敏実行委員長より別辞、松藤千弥学長、明石勝也聖マリアンナ医科大学理事長、本郷賢一教授(循環器内科)からお別れの言葉が奉読されました。続いて、谷口郁夫専務理事より弔電が披露され、ご遺族からの挨拶が代読された後、栗原敏実行委員長の挨拶、献花が行われました。

献花は、栗原敏実行委員長、松藤千弥学長、井田博幸附属病院長、明石勝也聖マリアンナ医科大学理事長をはじめとした他私立医科大学の理事長・学長等の関係者、中山芳教高木兼寛顕彰会会長、穎川一信同窓会会長、武石昌則同窓会副会長、山本裕康常務理事、梅澤祐二常勤顧問、吉村道博教授、桑野和善教授、本郷賢一教授の指名献花の後、名誉教授、客員教授、大学役員、同門会、学生代表、同窓、教職員の約三百名の献花が行われました。会場には、岡村哲夫先生がお好きだったバッハの「マタイ受難曲」が流され、スクリーンには思い出のスライドショーコンテンツが上映される中、厳かに行われました。最後に、谷口郁夫専務理事による閉会の辞により閉会となりました。



## 会次第

- |            |   |
|------------|---|
| 1. 開会の辞    | 谷口郁夫専務理事                                    |
| 2. 黙祷      | 谷口郁夫専務理事                                    |
| 3. ご経歴紹介   | 吉村道博教授                                      |
| 4. 別辞      | 栗原敏理事長                                      |
| 5. お別れの言葉  | 松藤千弥学長<br>明石勝也理事長<br>(聖マリアンナ医科大学)<br>本郷賢一教授 |
| 6. 実行委員長挨拶 | 栗原敏理事長                                      |
| 7. 弔電奉読    | 谷口郁夫専務理事                                    |
| 8. 指名献花    |   |
| 9. 一般献花    |   |
| 10. 閉会の辞   | 谷口郁夫専務理事                                    |



12月

## 学祖・高木兼寛没後100年記念講演会の開催

講師 山崎震一先生(「ウィリアム・ウイリス伝」著者)

2021年12月2日(木)、学祖高木兼寛没後100年記念講演会が大学1号館講堂にて開催されました。コロナ禍により1年延期となりましたが、当日は「ウィリアム・ウイリス伝」の著者である山崎震一先生をお招きし、「建学の精神の源流を辿る- 恩師ウィリアム・ウイリス-」と題したご講演をいただきました。英国の実地医学により日本の幕末・明治初期の医学の発展に貢献したウイリス、そのウイリスの意志を継いだ学祖の功績を中心に、歴史を振り返りました。創立140周年、大学昇格100周年を迎えた記念すべき年に、山崎先生のご講演を通じて、建学の精神「病気を診ずして病人を診よ」への思いを新たにすることができました。当日は、教職員、同窓を合わせ、182名もの多く方にご参加いただきました。



## 史料室展示ケースの改修工事

湿度管理された環境での学祖遺品の保管

史料室(高木2号館6階)では、学祖高木兼寛先生の遺品(礼服、肖像画、遺墨、勲章、賞状)を、将来にわたり、カビ付着による汚損を防いで保管、展示していくために、展示ケース内の湿度を一定に保つための改修工事が実施されました。工事終了後、2021年12月下旬に、外部倉庫にてクリーニング・修復された遺品が、約2年ぶりに展示ケース内に収納され、展示を再開しております。本学の源流である学祖高木兼寛先生の功績を覚える機会として、ぜひとも、ご見学ください。



12月



## 2022年 主な行事予定表

1月4日(火)	新年挨拶交歓会(午後4時から大学1号館講堂、テレビ会議)
1月22日(土)	大学院医学研究科(医学系専攻博士課程)入学試験(二次募集)
1月31日(月)	医学科教授退任記念講義(午後3時から大学1号館講堂)
2月4日(金)	第1267回成医会例会(午後6時から2号館講堂)
2月5日(土)	第116回医師国家試験(2日間)
2月6日(日)	第116回医師国家試験(2日間) 看護学科入学試験(一次試験)(筆記試験:午前10時 国領キャンパス)
2月8日(火)	看護学科入学試験合格発表(一次試験)(午後1時)
2月9日(水)	医学科入学試験(一次試験)(筆記試験:午前10時 五反田TOCビル・TOC五反田メッセ) 看護学科入学試験(二次試験)(面接:国領校医学科校舎)
2月10日(木)	大学院医学研究科(医学系専攻博士課程)入学試験(二次募集)合格発表(午後5時30分)
2月11日(金・祝)	第108回保健師国家試験
2月12日(土)	看護学科入学試験合格発表(二次試験)(午後1時)
2月13日(日)	第111回看護師国家試験
2月16日(水)	医学科入学試験合格発表(一次試験)(午後3時)
2月19日(土)	医学科入学試験(二次試験)(3日間 大学1号館)
2月20日(日)	医学科入学試験(二次試験)(3日間 大学1号館)
2月21日(月)	医学科入学試験(二次試験)(3日間 大学1号館)
2月28日(月)	医学科入学試験合格発表(二次試験)(午後3時)
3月5日(土)	第97回医学科卒業式・第26回看護学科卒業式(午後1時30分より2号館講堂)※謝恩会は中止
3月16日(水)	第116回医師国家試験合格発表(午後2時)
3月25日(金)	第108回保健師・第111回看護師国家試験合格発表(午後2時)
4月2日(土)	令和4年度大学院入学式(午後1時から大学1号館講堂)
4月7日(木)	令和4年度医学科・看護学科入学式(午後2時から2号館講堂)
4月8日(金)	1年生 医学科・看護学科オリエンテーション(午前9時から看護学科1階大講堂)
4月12日(火)	医学科・看護学科新入生スタートアップ研修
4月22日(金)	医学科新入生歓迎会(午後6時30分 東京プリンスホテル)
4月25日(月)	看護学科新入生歓迎会(午後7時 京王プラザホテル)
4月29日(金・祝)	京都府立医科大学定期戦(京都開催予定)
5月1日(日)	創立記念日
6月11日(土)	実験動物慰霊祭(午後3時から大学1号館講堂) 卒後50周年記念大学招待懇親会(昭和45年卒)(午後6時から東京プリンスホテル)
6月18日(土)	医学科保護者会春期総会(午後3時から看護学科1階大講堂)
7月17日(日)	看護学科第1回オープンキャンパス(看護学科1階大講堂)
8月8日(月)	医学科第1回オープンキャンパス(2号館講堂)午後1時
8月9日(火)	医学科第2回オープンキャンパス(2号館講堂)午後1時
8月21日(日)	看護学科第2回オープンキャンパス(看護学科1階大講堂)
9月17日(土)	卒後50周年記念大学招待懇親会(昭和46年卒)(午後6時から東京プリンスホテル)
9月22日(木)	東京慈恵会医科大学附属病院医療連携フォーラム(大学1号館講堂・2号館講堂)
10月1日(土)	同窓会支部長会議・学術連絡会議(午後3時30分から大学1号館講堂)
10月6日(木)	第139回成医会総会(2日間)
10月7日(金)	第139回成医会総会(2日間)
10月8日(土)	大学休業日
10月15日(土)	卒後50周年記念大学招待懇親会(昭和47年卒)(午後6時から東京プリンスホテル)
10月28日(金)	第118回解剖諸霊位供養法会(午後1時から増上寺)
10月30日(日)	看護学科第3回オープンキャンパス(看護学科1階大講堂)
11月12日(土)	学祖墓参(午後2時30分 2号館前集合)
11月19日(土)	医学科保護者会秋期総会(午後3時45分から大学1号館講堂・2号館講堂)
12月14日(水)	教授・准教授懇談会(午後6時から)

2021年7月から2021年11月までの慈恵大学の各種情報をお伝えします

## 大学公報

## 行事

- 2021年10月28日(木)午後1時より、芝増上寺に於いて第117回解剖諸霊位供養法会が行われた。
- 2021年11月27日(土)「岡村哲夫先生を偲ぶ会」が行われた。
- 2021年11月13日(土)、理事長、学長をはじめ大学幹部教員、学生会代表、看護専門学校代表により学祖 高木兼寛先生の墓参が行われた。

## 公示

- 2021年7月1日  
玉井 尚人講師に、准教授を命ずる  
久我 弘典氏に、連携大学院教授を命ずる  
伊藤 寿啓氏に、葛飾医療センター皮膚科診療部長を命ずる  
豊泉 博史氏に、葛飾医療センター内視鏡部診療部長を命ずる
- 2021年8月1日  
鬼頭 伸輔准教授に、客員教授を委嘱する  
大石 公彦講師に、小児科学講座担当教授を命ずる  
村橋 睦了准教授に、教授を命ずる  
小宮 成義准教授に、教授を命ずる  
小林 伸行講師に、准教授を命ずる  
櫻井 結華講師に、准教授を命ずる  
丸山 大講師に、准教授を命ずる  
大石 公彦氏に、附属4病院小児科総括責任者を命ずる  
大石 公彦氏に、附属病院小児科診療部長を命ずる
- 2021年10月1日  
吉田健講師に、准教授を命ずる  
宮野 加奈子氏に、准教授を命ずる  
(特任期間 2021年10月1日～2024年3月31日)
- 2021年10月29日  
東京慈恵会医科大学学長選任等規則第3条に基づき、次期学長を決定したので、下記のとおり公示する。また、同規則第7条第15項に基づき、東京慈恵会医科大学学長候補者選考委員会を解散する。  
1.氏名 松藤 千弥(東京慈恵会医科大学 分子生物学講座担当教授)  
2.任期 令和4年4月1日から令和7年3月31日まで
- 2021年11月1日  
山寺 亘准教授に、教授を命ずる  
橋口 正行氏に、教授を命ずる  
(特任期間 2021年11月1日～2024年3月31日)  
田中 俊英講師に、准教授を命ずる  
竹川 徹講師に、准教授を命ずる
- 2021年11月26日  
東京慈恵会医科大学の附属病院長選任等規則第5条に基づき、次期附属病院長を決定したので、下記のとおり公示する。また、東京慈恵会医科大学附属病院長候補者選考委員会に関する内規第7条に基づき、東京慈恵会医科大学附属病院長候補者選考委員会を解散する。  
1.氏名 小島 博己  
(東京慈恵会医科大学 耳鼻咽喉科学講座担当教授)  
(東京慈恵会医科大学附属病院 副院長)  
2.任期 令和4年4月1日から令和7年3月31日まで



大学公報

学事

● 大学院修了者

2021.6.9 蜂須賀 英梨  
2021.6.23 石川 陽平 森田 康平 横溝 陵  
2021.7.14 鈴木 隆介  
2021.7.28 羽村 凌雅  
2021.9.8 市川 欧子  
2021.10.27 杉光 一成  
2021.11.24 斎藤 雄弥

● 学位論文通過者

2021.6.9 福島 尚子 澤田 亮一  
2021.6.23 恒松 雅 鈴木 薫  
2021.7.14 児玉 智信 永田 祐介 小池 正嘉  
2021.7.28 竹永 晋介  
2021.9.8 齋藤 善也 長谷川 潤 松平 秀樹  
2021.9.22 青柳 佑加理 田中 政俊  
2021.10.13 中川 千夏 楠原 淳子  
2021.10.27 大村 友貴子 本田 康介  
2021.11.10 阿部 建彦  
2021.11.24 藤井 真也

訃報

- ▶ 新村 眞人名誉教授(皮膚科学講座)は、6月30日逝去されました。
- ▶ 小柴 健 北里大学名誉教授(昭和31年 本学卒)は、7月25日逝去されました。
- ▶ 岡村 哲夫顧問(前理事長)は、8月3日逝去されました。
- ▶ 田中 照二客員教授(内科学講座(消化器・肝臓内科))は、8月5日逝去されました。
- ▶ 大友 弘士客員教授(熱帯医学講座)は、8月8日逝去されました。
- ▶ 長谷川 和夫 聖マリアンナ医科大学名誉教授(昭和28年 本学卒)は、11月13日逝去されました。

東京慈恵会公報

● 行 事

2021年6月14日(火) 公益社団法人東京慈恵会 理事会・評議員会・定時総会を書面会議にて開催した。  
2021年11月9日(火) 公益社団法人 東京慈恵会 理事会を書面会議にて開催した。

● 報 告

2021年度 教務主任養成講習会 開講式を5月31日(月)にオンラインで挙行了した。

補助金・助成金

● 2021年度科学研究費助成事業 申請・採択状況一覧

種 目	新規申請 件数	採択件数		
		新規内定 件数	継続内定 件数	内定 件数合計
新学術領域研究	1	0	0	0
学術変革領域研究(A)	2	0	1	1
学術変革領域研究(B)	3	0	0	0
基盤研究(A)	0	0	1	1
基盤研究(B)	21	7	12	19
基盤研究(C)	163	55	68	123
挑戦的研究(萌芽)	25	2	3	5
挑戦的研究(開拓)	1	0	0	0
若手研究	62	31	55	86
若手研究(B)	0	0	2	2
研究活動スタート支援	6	4	7	11
特別研究員奨励費	0	0	2	2
国際共同研究強化(A)	0	0	1	1
国際共同研究強化(B)	0	0	1	1
国際共同研究加速基金 (帰国発展研究)	0	1	0	1
奨励研究	1	0	0	0
合計	285	100	153	253

注) ① 採択件数は、2021年11月1日現在の件数となり、転出者は除く。  
② 延長、再延長(基金)、学外分担者を除く。



## 生涯学習・公開セミナー等

## 慈恵医大生涯学習センター

**慈恵医大 生涯学習セミナー**  
月例セミナーと夏季セミナーを開催し、受講者には「日本医師会生涯教育制度参加証」を交付します。

## 月例セミナー

- 開催日時 第2土曜日(4月、6月、11月)  
16:00~18:00
- 場所 附属病院(本院)  
中央棟8階会議室

## 第260回

月日・時間 2022年4月9日(土) 16:00~17:00

テーマ 遺伝診療:遺伝子診断の現状と未来

演者 遺伝診療部 川目 裕 教授

月日・時間 2022年4月9日(土) 17:00~18:00

テーマ 遺伝性腫瘍の遺伝カウンセリング

演者 遺伝診療部 原田 佳奈・金子 実基子 認定遺伝カウンセラー

## 第261回

月日・時間 2022年6月11日(土) 16:00~17:00

テーマ FDG-PET検査について

演者 画像診断部 渡辺 憲 助教

月日・時間 2022年6月11日(土) 17:00~18:00

テーマ 患者満足度の高い腫瘍センターをめざして

演者 腫瘍センター 永崎 栄次郎 講師

## 第262回

月日・時間 2022年11月12日(土) 16:00~17:00

テーマ 二次性高血圧

演者 腎臓・高血圧内科 菅野 直希 助教

月日・時間 2022年11月12日(土) 17:00~18:00

テーマ 大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的

大動脈弁置換術(TAVI)の現状と展望

演者 循環器内科 森本 智 講師

注)一部変更することもあります。

## 第42回慈恵医大夏季セミナー

東京慈恵会医科大学附属病院医療連携フォーラム  
は2022年9月に予定しています。

お問合せ先:生涯学習センター  
TEL:03-3433-1111(大代表)内線2634

## 附属病院(本院)

**2021年度 みんなの健康教室  
知っておきたいがんのこと  
~治療と予防のための自助努力~**

(共催: NHK 放送博物館・東京慈恵会医科大学)

●開催時間 14:00~15:15(開場13:30)

●場所 NHK放送博物館  
愛宕山8Kシアター

## 第5回

月日 2022年1月22日(土)

テーマ 前立腺癌について

演者 泌尿器科 田代 康次郎 先生(助教/診療医員)

テーマ くらしとがん予防

演者 看護部 藤本 麗子 看護師長

## 第6回

月日 2022年3月12日(土)

テーマ がん治療と仕事の両立

~若年世代からシニアまで~

演者 港区立がん在宅ケア支援センター ういケアみなと  
高橋 都 先生(アドバイザー/内科医師/慈恵大学客員教授)

テーマ 病院での就労支援について

演者 患者支援・医療連携センター ソーシャルワーカー室  
木村 さとみ

お問合せ先:患者支援・医療連携センター 医療連携室  
TEL:03-5400-1202(直通)

## 慈恵医師会

## 慈恵医師会産業医研修会

2022年2月27日(日)、5月29日(日)に開催  
いたします。

(主催)慈恵医師会 (共催)東京都医師会

お問合せ先:慈恵医師会  
TEL:03-3433-1111(大代表)内線2636

## 看護学科

**地域連携看護学実践研究センター  
(JANPセンター)主催 市民公開講座**

●2021年度市民公開講座(動画)「身体のストレッチ・心のストレッチ」を配信しております。「慈恵医大janp」で検索していただくか、下記QRコードからアクセスしてください。

- ・3本の動画をご覧いただけます。
1. 身体のストレッチ おうちでピラティス
  2. コロナに負けるな! おうちでできるフレイル予防!
  3. こころのストレッチ

・上記の内容を掲載したJANPセンター通信Vol.2をお配りしています。

JANPセンターHP ▶



お問合せ先:看護学科 学事課  
TEL:03-3430-8686(自動オペレーター)内線2770  
E-mail janp@jikei.ac.jp

## 寄付のお願い

## ご寄付の御礼とお願い

平素より本学に対してご支援、ご協力を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

2020年2月に新型コロナウイルス感染症の患者さんを受入れて以来、本学は臨床、教育、研究のすべての機能が困難な状況に直面しましたが、皆様の様ざまなご支援とご協力によって、難局を切り抜けることができました。改めて皆様のご芳志に対して御礼申し上げます。

さて、2020年1月に本院の新外来棟が稼働し、西

新橋キャンパス再整備計画は一区切りいたしました。が、現在、老朽化が激しい第三病院の建て替えと、学生教育の改善・充実を図る為に国領キャンパス再整備計画の検討を始めております。これらの基盤整備には莫大な資金が必要です。大学は、今後も今まで以上に自助努力を重ねて参りますが、資金の調達には限度があります。引き続き関係各位のご協力を心からお願い申し上げます。

学校法人 慈恵大学 理事長 栗原 敏

## 【お知らせ】

一般のご寄付につきましても記念事業募金と同様、100万円以上のご寄付をいただいた方のお名前をドナーズボードに掲載させていただきます。また、税務上の優遇措置につきましても記念事業募金と同じ取扱いとなります。

## 寄付者名簿

・2021年6月1日~2021年10月31日の寄付者

## ● 企業等

株式会社 慈恵実業  
代表取締役社長  
石塚雄三

## ● 同窓生

石田 桂三郎  
伊従 秀章  
栗原 敏  
鮫島 正繼  
嶋田 英敬

徳真会  
理事長 西村真

仲田 浄治郎

平山 隆勇

村田 守昭

榊原 令子

上出 良一

## ● 父兄

井谷 和芳  
伊藤 智子

医療法人社団碧山会  
コクティやまうち内科・神経内科  
理事長 山内照夫

梅田 元之

冠城 徳子

辻 徳雄

山田 史郎

## ● 保護者会

東京慈恵会医科大学  
医学科保護者会  
会長 石井隆幸

## ● 一般個人

石綿 佐和子

上野 孝美

上野 芳江

臼井 聖

小曾根 千代子

金野 光都

清水 紀世美

芹川 久美子

立川 誠二

当金 宏子

戸谷 克昌

東出 憲一

本位田 明子

有限会社 リドルデザイン  
代表取締役 塚本太朗



## ガバナンス

## 学校法人 慈恵大学 行動憲章

慈恵大学は、創立以来築いてきた独自の校風を継承し、社会に貢献するため、建学の精神に基づいた行動憲章を定めます。全教職員は本憲章を遵守し、大学の行動規範に従い社会的良識をもって行動します。大学役員は率先垂範し、本憲章を全学に周知徹底します。

1. 全人的な医療を実践できる医療人の育成を目指します。
2. 安全性に十分配慮した医療を提供し、社会の信頼に応えます。
3. 規則を守り、医の倫理に配慮して研究を推進し、医学と医療の発展に貢献します。
4. グローバルな視野に立ち、人類の健康と福祉に

貢献します。

5. 情報を積極的に開示して、社会とのコミュニケーションに努めます。
6. 環境問題に十分配慮して、教育、診療、研究を推進します。
7. お互いの人格と個性を尊重し、それぞれの能力が十分に発揮できる環境の整備に努めます。

この憲章に反するような事態が発生したときには、大学は法令、学内規則・規程に従って真摯に対処し、社会に対して的確な情報の公開と説明責任を果たし、速やかに原因の究明と再発防止に努めます。また、大学の就業規則に則り役員を含めて厳正に処分します。

## 学校法人 慈恵大学 行動規範

## (目的)

第1条 慈恵大学(以下「大学」という)が社会から信頼される大学となるために、本学に勤務する教職員すべてが、業務を遂行するにあたり、また個人として行動する上で遵守すべき基本的事項を明記した行動規範を定める。

## (基本理念)

第2条 東京慈恵会医科大学の建学の精神、行動憲章および附属病院の理念・基本方針を日々の行動規範とする。

## (法令の遵守)

第3条 本学の教職員は法令、学内規程などの規則を厳守し、「良き市民」として社会的良識をもって行動しなければならない。

## (人間の尊重)

第4条 全ての人々の人格・人権やプライバシーを尊重し、いわれなき差別、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの行為を行ってはならない。

## (取引業者との関係)

第5条 取引業者との取引に際しては、公正・公明かつ自由な競争を心がけ、職位を濫用して不利益をもたらしてはならない。また、不正な手段や不透明な行為によって利益を追求してはならない。

## (反社会的勢力との関係)

第6条 社会秩序に脅威を与える団体や個人に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。なお、患者対応についてはこの限りではない。

## (過剰な接待・贈答の禁止)

第7条 正常な取引関係(患者関係含む)に影響を与えるような過剰な接待、または贈答の受け取りを禁止する。

## (環境保護)

第8条 資源・エネルギーの節約、廃棄物の減少、リサイクルの促進などに努め、限りある資源を大切にするとともに、環境問題に配慮して行動するよう努めなければならない。

## (公私の区別)

第9条 公私の区別をわきまえ、大学の定める規則等に従い、清廉かつ誠実に職務を遂行しなければならない。

## (日常の業務処理)

第10条 業務上知り得た情報や文書などは、業務目的以外に使用したり、漏洩してはならない。また、個人情報を含めた秘密の情報や文書などを厳重に管理しなければならない。

2. 法令および就業規則などに基づき、常に災害の防止と衛生の向上に努めなければならない。
3. 大学の財産を私的、不正または不当な目的に利用してはならない。
4. 会計処理にあたって、不明朗、不透明な処理を行ってはならない。

## (虚偽の報告・隠蔽)

第11条 学内はもとより学外に対して、虚偽の報告をしたり事実を不正に隠蔽してはならない。

## (教育・指導)

第12条 各職位にある者は、自ら本規範を遵守するとともに、所属教職員が本規範を遵守するように、適切な教育と指導監督する責任を負う。

## (告発)

第13条 教職員または取引業者は、この行動規範に違反するような事実を確認した場合は、提案(告発)窓口にて提案することができる。

2. 提案者(告発者)については、氏名秘匿などプライバシーを保護する。

## (監査・報告)

第14条 監査室長は、本規範の遵守状況について監査し、監査結果を理事長に報告する。

## (違反の処理)

第15条 教職員が本規範に違反した場合は、事実関係を慎重かつ厳正に調査の上、就業規則に則り懲戒する。

## 附 則

1. 本規範は、平成17年4月1日から実施する。
2. 各職位は、取引業者等に対して本規範の趣旨に従い行動するよう指導するものとする。

## 医療連携窓口のご紹介

本学附属病院では、紹介・逆紹介など循環型地域完結型医療を推進し、地域の先生方との密なる医療連携を目指します。  
患者さんをご紹介頂く際は、各病院の担当窓口までご連絡をお願い致します。



## 附属病院(本院)

患者支援・医療連携センター 医療連携室



〒105-8471 東京都港区西新橋3-19-18  
TEL 03-3433-1111(代表) 内線5099  
FAX 03-5401-1879(直通)



## 葛飾医療センター

入院・医療連携センター 医療連携室



〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2  
TEL 03-3603-2111(代表)内線5145  
FAX 03-3690-7474(直通)



## 第三病院

総合医療支援センター 医療連携室



〒201-8601 東京都狛江市和泉本町4-11-1  
TEL 03-3480-1151(代表)内線3804、3830  
FAX 03-3430-3611(直通)



## 柏病院

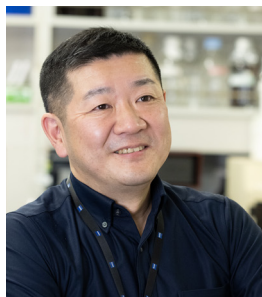
患者支援センター 医療連携室



〒277-8567 千葉県柏市柏下163-1  
TEL 04-7164-1111(代表)内線2158  
FAX 04-7164-1197(直通)



## [表紙の人]



## 岡部 正隆

Masataka Okabe

東京慈恵会医科大学 解剖学講座担当教授

## 多様な個性が唯一無二の医師として巣立つ環境、それを整えるのが今の私の役割

慈恵に入学した当時、私にとっての医学は今でいうヒト生物学でした。高校では生物部の部長を努めるくらい生き物好きで、医学の道を選んだのも、ヒトという生物を研究できると思ったからです。生物好きには、多様性に魅力を感じる虫屋タイプと、個体の生命メカニズムに想いを馳せるラジオ工作タイプがいるのですが、慈恵で学ぼうちに前者から後者へ変わったようです。多様性から個性へ、見るものが変わりました。

医師にも色々な働き方があります。臨床医だけでなく、病理医、監察医、研究医、医系技官、医学教育の専門家もいます。私は慈恵を卒業後、ショウジョウバエの発生学の研究や、脊椎動物の進化の研究をして、縁あって慈恵に戻り、今は解剖学を教えています。他の人がやらないことに取り組むことで無二の存在になりたいという思いがあったのかも知れません。

医学科のカリキュラム委員長として、教育プログラムの開発で心掛けているのは、個性が伸び伸びと育っていく環境を提供することです。解剖学を学ぶ過程で、準備された解を求める「受験生の脳」から解のない問題に取り組む「医学生の脳」へとメタモルフォーゼ(変態)していく2年生を見守りながら、多様な個性が6年間で唯一無二の医師へと成長するために学舎のあるべき姿を探求しています。



本学の研究を牽引する医師たちの姿が「対談 教授×学生 学生が聞く!研究者のホンネ」でご覧いただけます。

<http://www.jikei.ac.jp/branding/2017/interview/interview07.html>



## 編集後記

優れた研究から得られた技術やノウハウであるシーズは、社会実装されてこそ大きな成果を生み出します。そのためにはアカデミアなどの教育機関と民間企業が共同でプロジェクトを進める産学連携が重視されています。

「病気を診ずして病人を診よ」という建学の精神を持つ本学にとっても、研究成果を社会に還元することは重要な活動テーマであり、2020年4月から産学連携講座制度を開始し、産学連携に取り組んでいます。

今号では産学連携講座のひとつであるエクソソーム創薬研究講座を例に、単科大学である本学にとっての産学連携の重要性と、本学だからこそできる独自の産学連携の形がもたらす社会的な意義についてもご紹介しています。

現在、エクソソーム創薬研究講座の他にも疼痛制御研究講座、腎臓再生医学講座が設置され、世界トップレベルの産学連携が展開されています。各講座の持つ伝統を継承すると共に、産学連携という新たな形を通して、研究成果の社会への還元に取り組む本学の今の姿をご理解いただき、今後とも応援していただければ幸いです。

本誌では本学に関係する皆さんと価値観と方向性を共有することを目的に、これからも変わりつつある本学の姿をお伝えしていきます。より役立つ法人誌にするために、是非、本誌をご覧いただき、ご意見やご感想をお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。

法人広報委員会委員長 浅野 晃司

## 略歴

1993年 東京慈恵会医科大学卒業 医師  
1996年 同大学院博士課程修了 博士(医学)  
1997年 国立遺伝学研究所発生遺伝研究部門助手  
2002年 キングスレッジロンドンMRC発生神経生物学センター研究員  
2005年 東京慈恵会医科大学DNA医学研究所講師  
2007年 現職

## 主な学内委員

2011~2015年度 教育研究助成委員長  
2016年度~在任 カリキュラム委員長  
2020年度~在任 大学広報委員長

## 主な学外委員

日本解剖学会 代議員  
日本ヒト細胞学会 理事  
篤志解剖全国連合会 代議員  
白菊会連合会 常任運営委員  
日本医学教育評価機構 評価員  
日本医学会総会2023東京 記録委員会 幹事  
NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構 副理事長

## 所属学会

日本解剖学会、日本発生生物学会、日本分子生物学会、日本進化学会、日本ヒト細胞学会

## 受賞

日本進化学会研究奨励賞 2006年

発行 学校法人 慈恵大学  
発行人 理事長 栗原 敏  
連絡先 〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8  
学校法人 慈恵大学 広報課  
TEL 03-3433-1111(大代表)  
FAX 03-5400-1281  
e-mail koho@jikei.ac.jp  
号数 第37号  
発行日 2022年2月1日

<http://www.jikei.ac.jp/>